令和元年度 大阪アミューズメントメディア専門学校 学校自己評価

点検の評価

【 4 】 適切 【 3 】 ほぼ適切 【 2 】 やや不適切 【 1 】 不適切

項目	点検項目	点検評価
教育理念・目的・育成人材像等	1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
	1-2 学校における職業教育の特色は何か	4
	1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
	1-4 学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
	1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
	1-1 本校の教育理念としている産学共同現場実践教育に関して教職員は理解しており学生が目指す業界で、長く活躍できる人材を育てている。 1-2 学生が目指す業界で、現在も仕事をしている職員が指導することで、目指す業界で求められている柔軟性、協調性などを築くことのできている。 1-3 世界に誇ることの出来る日本のエンタテインメント業界の情報を講師会・業界の懇親会などで収集し、業界の動きを把握し、カリキュラムなどに反映している。 1-4 学生にはHRや面談などを通し、また保護者にも保護者会などを通じて教育理念・方針の共通認識して頂き業界理解を深めてもらえるよう注力している 1-5 講義の殆どの職員が学生が目指す業界で仕事をしているため、業界で求められていること、業界の動向は把握できている。また学科で教える全教員が参加する講師会でも再確認をおこない、カリキュラムが構築されている。	

点検の評価

【 4 】 適切 【 3 】 ほぼ適切 【 2 】 やや不適切 【 1 】 不適切

項目	点検項目	点検評価
学校運営	2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
	2-7 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
	2-8 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	3
	2-9 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
	2-10 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
	2-11 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
	2-12 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
	2-13 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
	2-6 年度当初の各学科運営計画の策定がなされ、学内全体で共有されている。	
	2-7 学校全体としての事業計画は策定、公開されている。各学科毎の年間計画の統一と概観のドキュメント化に取り組みたい。	
	2-8 レギュレーションは有効に機能しているものの、更なる明文化、規則・内規詳細の整備に取り組みたい。	
	2-11 制作業界への取り組みは先行しているが、地域への関与が強い訳では無い。引き続き取り組みたい。	
	2-13 過去数年に渡って取り組み、改善が図られつつあり、学生規模・専門学校のスケールに合わせた効率化は達成しつつある。引き続きの取り組みを進めたい。	

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

教育活動	3-14	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
	3-15	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
	3-16	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
	3-17	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
	3-18	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	4
	3-19	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
	3-20	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
	3-21	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
	3-22	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
	3-23	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	1
	3-24	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
	3-25	関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行なわれているか	3
	3-26	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員 の指導力育成など資質向上のための取組みが行なわれているか	3
	3-27	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
<p>3-14 各学科で年度末に実施されている教育に関わる職員・教員が参加する講師会、教務会議等を通じて方針等は策定されている。</p> <p>3-15 キャリアセンターが確認する“業界が求める技術レベル”を修得させるために、講師と学科担任により、必要な要件をカリキュラムに反映している。</p> <p>3-16 学科担任が講座担当講師の協力を得てカリキュラムを構築、教務部長等の確認をおこない、実行している。</p> <p>3-17 学校独自の動きだけでなく、東京・兄弟校、グループ業界企業からも最先端情報を得て、教育に反映させている。</p> <p>3-19 職業教育・現場実習等は数多く実践されているものの、体系的な整理・整備が必要かと思われる。</p> <p>3-20 評価体制は整備されつつあるが、学科毎の統一基準も用意されるべき。学生によるアンケート調査なども検討の対象にしたい。</p> <p>3-21 今年度より実施する学校関係評価委員より、評価をいただく予定になっている。</p> <p>3-22 「成績認定会議」「進級・卒業判定会議」は、年頭にスケジュールが確定し実施されている。また補講授業等が必要な学生についても組織的な対応をしている。</p> <p>3-23 制作業界全般に実力主義であり、資格取得よりも提示できる「作品」が優先するため、作品制作重視のカリキュラムとなっている。</p> <p>3-24 カリキュラムは育てる人材像が明確になっており、適切な実務経験者を講師として採用・確保している。</p> <p>3-25 殆どの学科担任は実務経験者であり、教員の確保についても業界との繋がりで採用している。また業界の中心である東京の講師確保にも勤めている。</p> <p>3-26 過去、ランダムに取り組んできたが、今期より「関連分野・課題ごと」の教育課題に繋がる研究会を恒常化する方向へ向う。</p> <p>3-27 前項に準じ、全学科共通の一般的な能力開発研修は、今期よりスタートしている。専門性を持つものも含め、年3～4回の開催を定例化したい。</p>			

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

学修成果	4-28	就職率の向上が図られているか	4
	4-29	資格取得率の向上が図られているか	1
	4-30	退学率の低減が図られているか	3
	4-31	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	1
	4-32	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2
	<p>4-28 業界外一般就職希望者の就職活動サポートを強化している。旧来のキャリアセンター実施の就職講座、業界関係者(企業・編集部)を誘致しての発表会、編集部批評会、企業説明会、学内面接などを実施することで就職率向上が図られている。</p> <p>4-29 業界就職へ向けては必須資格がないため、カリキュラム内で業界内での専門技術の習得を行っている。</p> <p>4-30 メンタル面が弱い学生へは個別対応の機会を増やすことで、退学率の低減を図っている。また保護者との連携を強化している。</p> <p>4-31 OB・OGネットワークを活用して卒業生状況の把握に努めている。全卒業生を網羅するシステムの構築が必要である。</p> <p>4-32 卒業生アンケートを実施、卒業生の活躍は、守秘義務などがあり業務実績を公開できないケースもあるが、一定は把握できていると考える。また卒業生をゲスト講師として招聘し、後進の育成に当たっている</p>		

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

学生支援	5-33	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	
	5-34	学生相談に関する体制は整備されているか	3	
	5-35	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	
	5-36	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	
	5-37	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	
	5-38	学生の生活環境への支援は行われているか	3	
	5-39	保護者と適切に連携しているか	3	
	5-40	卒業生への支援体制はあるか	4	
	5-41	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	
	5-42	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行なわれているか	2	
	<p>5-33 各学科教務＋キャリアセンターによる二年次の指導は体制化されている。今後は、目指していた業界以外へ就職を希望する学生へのスキルを生かした就職等のサポートを厚くしたい。</p> <p>5-34 学科担任が相談に乗れる以外に、専門家による学生相談(こころの相談室)が来年度から稼働し始める。</p> <p>5-35 令和2年4月から実スタートする高等教育進学支援新制度の対象校となり、公的な支援制度には対応している。学校独自の経済的な支援制度としては、来年度、特待生制度の拡大をおこなう。</p> <p>5-36 法令で定められた学生の健康診断は毎年実施している。「こころの病気」への対応として、専門家と連携した医療機関の斡旋などにも取り組んでいきたい。</p> <p>5-37 各学科ともエンタテインメント系の制作学修である特質からクラブ活動などはほとんど行われていない。現状の把握を行い、今後、学校としてサポートを検討していく。</p> <p>5-38 学校の場所が便利な場所にあるため、特別な支援はしていないが、遠方からの自活学生や新聞奨学生らへは、生活指導や注意喚起などを適宜行っている。</p> <p>5-39 出席不良・制作への取り組みに変化が見られた場合などは、保護者に連絡を取り、連携を取って対応している。また進路について不安を持つ保護者が多いこともあり、進路説明会を実施している。保護者との3者面談も適宜、実施している。今後は学校の情報などを保護者向けに告知することも検討していく。</p> <p>5-40 制作業界での活躍をサポートするための「OBOGネットワーク」、卒業生対象の業界勉強会の実施、相互情報交換の場を用意している。業界進出者以外の卒業生対象の取り組みを模索したい。</p> <p>5-42 地域の高校から要望されての「出前授業の実施」など高専連携に取り組んでいる。業界との結びつきは広いが、現状では他の高等教育機関との連携の動きはない。高校・高等専修学校が授業の一環として実施しているキャリア選択授業や出前授業にも積極的に取り組み、生徒の職業観向上に貢献しているほか、本校独自の高専連携企画として、設置学科と連動した講義メニューを整備し、「高校・高等専修学校の学びが将来どう役立つのか」をテーマとした出張授業・部活支援を展開している。</p>			

点検の評価

【 4 】 適切 【 3 】 ほぼ適切 【 2 】 やや不適切 【 1 】 不適切

教育環境	6-43	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
	6-44	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
	6-45	防災に対する体制は整備されているか	4
	<p>6-43 業界内で必要な最新設備・ソフトを導入し、年度末にはメンテナンスを実施している。 6-44 業界と連携した制作現場体験は充実しているが、インターンシップ等の機会 of 全学生への平準化にも取り組んで行きたい。 6-45 年一回の全校避難訓練は消防署より高い評価を得ている。職員の訓練にも取り組んでいるが、学校としての「大規模災害に備えた準備」にも取り組み始めたい。</p>		

学生の募集と受け入れ	7-46	学生募集活動は、適正に行われているか	4
	7-47	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
	7-48	学納金は妥当なものとなっているか	4
	<p>7-46 エンタテインメント業界での仕事は、「特殊な業態も多く見られること」「一般人の見た目と、業界内部の実情には乖離があること」などから、入学前に志願者や保護者の誤解や未確認を防ぐ事が肝要である。学ぶことの実際、授業の状況などを知るためにも、進学ガイダンス等の直接対面、体験説明会・オープンキャンパスへ参加の機会をでき得る限り多く設け、保護者への説明の場も用意して、不本意入学防止に努めている。 7-47 曖昧になりがちなエンタテインメント業界への最終的な就職およびデビューの成果に関しては、誠実に実態を報告している。ただ、そうではない卒業生がどのように教育の成果を得ているか？に関しては、工夫が必要である。必ずしもエンタテインメント業界は白黒の世界ではない。業界へ入れなければ価値はゼロではないので、その事を理解させるプレゼンテーションを試みたい。 7-48 関西圏類似教育機関(専門学校・大学)と比較して、学納金は極めて妥当である。本学は全学科二年制である事にも留意されたい。</p>		

財務	8-49	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
	8-50	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
	8-51	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4
	8-52	財務情報公開の体制整備はできているか	4
	<p>8-49 本学は学校法人校としてスタートして以降も、学生募集は極めて堅調であり、卒業後の業界進出度も高く評価されている。令和2年度より的高等教育支援制度の認定校になり、来年度には職業実践専門課程の認定取得へ向う事を考え合わせても、中長期的な財務基盤は安定していると言える。 8-50 学校運営が順調である事に則り、時代の要請と教育業界の変化に対応するために、兄弟校の学校法人への包括や、先々は専門職大学化へ向けた準備等へ、予算収支計画を確実にしながら取り組んで行きたい。 8-51 監査法人を監事に立て、毎年の会計監査が行われている。 8-52 高等教育教育支援制度認定要件となっている財務情報公開が既に実施されている。</p>		

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

法令等の遵守	9-53	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	9-54	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
	9-55	自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか	4
	9-56	自己評価結果を公開しているか	4
	9-53 大阪府教育庁の指導を受けながら、法令順守と適正な運営に努めている。 9-54 特に教務運営中での個人情報の保護に関しては厳重な管理が為されている。 9-55・56 2020年度中に体制整備を行い、自己評価の実施、問題点の改善、結果の公開を開始する。継続的な取り組みにより、学校運営の改善・整備に活用して行きたい。		

社会貢献	10-57	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
	10-58	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	1
	10-59	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2
	10-57 社会貢献としては、習得技術を活かした、自治体からの要請に応えての「大阪市:電話待機音声の収録」「大阪市:人材募集活動ポスター・デザインの作成」「淀川区:成人式司会」などの取り組みをしている。また、茨木市の私立高校の選択授業カリキュラムへの協力などを行っている。引き続き、取り組みの範囲を広げたい。 10-58 学生にとって技量発揮の場であるインターンシップ制作/オーディションの受講などは多く取り組まれているが、いわゆる社会活動的なボランティア活動(社会清掃、災害支援)などには取り組めていない。今後の課題である。 10-59 地域の高等学校への教育支援は出来ているが、一般向けの公開講座などは実施できていない。今後の課題となる。		

国際交流	11-60	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2
	11-61	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	1
	11-62	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整理されているか	1
	11-63	学習成果が国内外で評価される取組みを行なっているか	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学は、2020年度始業時点で、留学生は在籍していない。過去、外国籍留学生は、「日本国内での産業現場への就職が難しい」という制作業界の事情もあって、積極的に取り組んでこなかったが、社会状況の変化、関係法令の整備などにより、今後は本学としても取り組みを進めなくてはならない。 ・ 留学生と言う概念も、旧来の「外国育ちの外国籍の若者」だけでなく、広くは帰国子女や日本在住者の子弟など、背景の異なる若者が本学を検討する場合も多い。客観的な判断基準の検討も含め、取り組みの指針を設定したい。 ・ 学習成果の国際的な評価の確立に関しては、文部科学省や高等教育資格承認情報センターなどの指針や指導を取り入れて、エンタテインメント産業従事者の評価、教育実施、人材輩出に貢献して行きたい。 		